

名古屋大学農学国際協力研究センターの設置とその趣旨

名古屋大学農学国際教育協力センター長 竹谷 弘之

平成11年4月1日、名古屋大学に、新たに「農学国際教育協力研究センター」が設置されました。

この農学国際教育協力研究センターは、農学領域における国際教育協力に対する社会的要請にこたえるため、①JICAや大学、NGOなどが実施した農学国際教育協力関連プロジェクトの総合的分析・評価とプロジェクト開発、②現場の問題解決のための新学術分野の創出、③国内外の協力ネットワークの形成とコーディネート、などの研究活動を中心的に行うほか、研修会の実施、研修員の受入れを行うとともに、大学が有する知的・人的資源のデータベースの構築、及び大学間のネットワークの形成を通じて、発展途上国が直面する農学領域の問題を解決する全国的拠点として設置されました。

これまで、全国の多くの大学が、発展途上国の開発の促進と国際協力の総合的研究を行う教育研究組織の設置や、各学部の特徴に応じ、技術協力をはじめとする様々な分野において国際協力・交流等を進めてきたことは周知のところですが、このたびの農学国際教育協力センターの設置は、発展途上国への農学領域の問題を解決する人づくり協力に対し、全国的視野に立ち、組織的・効率的・持続的に実施することを可能にしたという意味において、全国の農学系分野は新たな大きな資源を得たものと考えます。

大学は、有意な人材を擁し、日々新たな学術研究を行って知的資産を創出するとともに、次世代を担う人材を育成するという営みを通じて社会的ニーズにこたえ、人類社会に新たな価値をもたらす機能を有しています。このたびの農学国際教育協力センターの創設は、大学が自ら生み出す知的資産を国際的に解決を求められている人づくりの社会的ニーズに結びつけるインターフェイスの学術を発展させるという意味において、全国の農学系大学の教育・研究に新たな機能を付け加えたという点もまた見逃せないところです。

農学国際教育協力研究センターは、多くの機関・研究者等の協力を得ながら、既にナミビア、パラグアイ等の農学教育強化支援プログラムや、ネパールへの農業技術協力の外部評価など、現地の人づくりに資するプロジェクトの評価・開発や提案活動を実施し始めており、途上国の研究者や研修員の研修・調査にかかわるコーディネート活動も展開しています。また国公立大学の農学系学部・研究所等に所属する全教員に対し、国際教育協力への参加の可能性と具体的協力形態を把握するアンケート調査を実施し、農学分野の協力人材データベースの構築を進めています。

今後、文部省や全国の農学系大学・学部との連携・協力活動をますます強化するとともに、国際協力事業団や国連地域開発センター、AAACU（アジア農科系大学連合）、SEARCA（東南アジア文部大臣機関農業高等教育研究地域センター）、帰国留学生など、国内外の協力ネットワークの開発研究も本格化する予定です。

本センターは、名古屋大学の名前を冠していますが、全国の大学が活用する共同研究機関として機能することが求められています。全国の農学系大学・学部等、農学関係機関が国際協力を推進するに当たって、このセンターを大いに活用し、農学分野の国際教育協力を世界的に高く評価される内容へとさらに充実させ、農学分野の高等教育機関のさらなる発展に結びつけて下さることを期待いたします。